

2021 年 7 月 1 日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【自動車メーカー】他社牽制力ランキング 2020

トップ 3 はトヨタ、日産、ホンダ

弊社はこのほど「自動車メーカー業界」を対象に、2020 年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2020」をまとめました。この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

その結果、2020 年に最も引用された企業は、1 位 **トヨタ自動車**、2 位 **日産自動車**、3 位 **本田技研工業**となりました。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2020 上位 10 社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	トヨタ自動車	6,525
2位	日産自動車	2,802
3位	本田技研工業	2,594
4位	マツダ	961
5位	豊田中央研究所	724
6位	ヤマハ発動機	626
7位	SUBARU	556
8位	三菱自動車工業	553
9位	スズキ	533
10位	ダイハツ工業	341

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2020 年 12 月までに公開されたすべての特許のうち、2020 年 1 月から 12 月末までの期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を抽出。

本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2021 年 5 月 1 日の時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお業種は、総務省の日本標準産業分類を参考に分類しています。

1位 **トヨタ自動車**の最も引用された特許は「安全性を高めた、車両の自動運転制御」に関する技術で、エイディシーテクノロジーなどの計13件の審査過程で引用されています。このほかには「充放電容量の低下を抑制し得るリチウムイオン二次電池」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、旭化成の「非水系リチウム蓄電素子の製造方法」など計9件の拒絶理由として引用されています。

2020年に、トヨタ自動車の特許によって影響を受けた件数が多い企業は本田技研工業（339件）、次いでデンソー（273件）、日立Astemo（158件）となっています。

2位 **日産自動車**の最も引用された特許は「道路形状、障害物を検出し、軌道を算出するリスク最小軌跡生成装置」に関する技術で、本田技研工業などの計10件の審査過程で引用されています。このほかには「装置の異常検出時に運転者に違和感を招くことなく作動を中止できる車両用走行制御装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、日本精工などの計5件の拒絶理由として引用されています。

2020年に、日産自動車の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（263件）、次いで本田技研工業（158件）、デンソー（112件）となっています。

3位 **本田技研工業**の最も引用された特許は「造形サイクルタイムの短縮化と、不活性ガス等の雰囲気ガスの使用量の削減化が図れる三次元造形装置」に関する技術で、IHIの「レーザ溶接装置及びレーザ溶接方法」関連特許など計6件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2020年に、本田技研工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（201件）、次いでデンソー（98件）、スズキ（72件）となっています。

4位 **マツダ**は「エンジンの排気系部品取付構造」、5位 **豊田中央研究所**は「衝突対象を推定する車両用衝突判別装置」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2020データ】

▶納品物：以下のデータを収納した CD-ROM

- ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部営業グループ

TEL：03-5802-6580 FAX：03-5802-8271 HP：<https://www.patentresult.co.jp/>